

すぎなみ 教育報

No. 232

平成31年3月10日
(年4回発行)



発行 杉並区教育委員会

CONTENTS

- 特集 部活動を通して
成長する子どもたち …………… 2
- 教育相談体制が変わります …………… 4
- 平成31年度教育予算(案)のあらまし …… 5
- 我が校はコミュニティ・スクール! ② … 6
- 2018すぎなみ教育シンポジウム開催報告
第10回中学生「東京駅伝」大会の報告 … 7
- ようこそ学校図書館へ⑥
- 小学生名寄自然体験交流事業 …………… 8
- 教育委員会からのお知らせ

部活動を通して 成長する子どもたち

教育委員会は、生徒の学びと成長の場であり、
学校生活を豊かにする部活動を支援しています。

部活動を通して 成長する子どもたち

部活動は、生徒が自主的・自発的に参加する学校教育の活動です。部活動には、スポーツや文化活動等に親しみ、生徒同士で共通の目標に向かって努力することで、責任感や連帯感を育むなど学びの場として大きな教育的意義があります。

本特集では、部活動を通して成長する子どもたちの様子や部活動支援の取組などを紹介します。

阿佐ヶ谷中学校

阿佐ヶ谷中学校には、6つの部活動*1で「体幹トレーニング」の専門コーチ*2が生徒の体づくりや技術向上のために支援しています。

※1 バスケットボール、バドミントン、サッカー、陸上競技、硬式テニス、水泳
※2 専門コーチについては4ページ参照

人間関係の構築

○バスケットボール部 部長 前山 友汰 さん

**仲間と練習を重ねた成果が
試合で出せるとうれしい!**

仲間たちと何度も練習したことが、試合での息の合ったプレーでできたときは、とてもうれしく達成感を感じます。また、コーチに筋肉の使い方を教わり、今まで使えていなかった筋肉を使えることで体を動かす可動域が広がり、正しいシュートフォームを習得することができました。



達成感



○バドミントン部 部長 星 優衣 さん

**教わったり、教えたり
先輩後輩の関係づくりも楽しい!**

小学生の頃からバドミントンで遊んでおり、速いスマッシュを打つお姉さんたちに憧れていたこともあって、自分も上手になりたいと入部しました。部活動では、同級生との横のつながりだけでなく、先輩に打ち方を教わったり、後輩に教えたりなど普段の学校生活ではなかなか難しい縦のつながりを作れることが楽しいです。

向上心・成長の実感

○水泳部 部長 紺野 七永 さん

**負けたくないという気持ちが
自分を成長させます!**

部活動で仲間と練習をしていると、みんなに負けたくないという気持ちが生まれ、ますます練習に身が入り記録も伸びてきました。記録が伸びるともっと速くなりたいという気持ちが強くなりました。冬場は筋力トレーニングが中心となりますが、コーチの指導を受けてから、足がつる人が減ってトレーニングの成果を実感しています。



○吹奏楽部 部長 山田 ひなた さん 地域の方からの 「良かったよ!」の 言葉が原動力に!

吹奏楽部では、定期演奏会や地域のイベントなど人前で発表することが多く、そのような経験ができることも部活動ならではの魅力です。地域で演奏した後、「良かったよ!」と声をかけてくださり、次はもっと良い演奏をしよう日々練習に励んでいます。

地域との交流



山田さん



富士見丘中学校

富士見丘中学校には、年間を通してダンスやハンドボールなど数種類のスポーツに親しむ「トレーニングスポーツクラブ」という部活動があります。



部活動活性化事業 専門コーチ(ダンス)

○紺野 みゆき さん (株式会社 Sports & Works) 正しい技術と知識を伝えて部活動を より楽しんでもらいたい

今の子どもたちは思いっきり体を動かす機会に恵まれていないと感じています。正しい技術と知識を身に付けてもらい、体を動かすことの楽しさを感じてほしいと思っています。

自分への自信

○トレーニングスポーツクラブ 部長 自分に自信が持てた!

入学当初は運動に対して苦手意識があったので、色々な運動を楽しくできそうだと思って入部しました。部活動で習った技術を体育の授業で生かすことで、友達に褒められたり、教えたりするを通して、段々と自信を持つことができ、今は運動の苦手意識がなくなりました。



○トレーニングスポーツクラブ 顧問 高原 美和子 先生

**部活動での経験や関わり合いを
通して生きる力を育てほしい**

部活動を通して、生きていく上で大切な自分の目標をクリアできた達成感・やりがいを感じてもらいたいです。そのために、「一所懸命になる」経験を子どもたちに積んでもらいたいです。また、クラスの友達や同級生だけではなく生徒同士の関わり合いを通して、多様な人間関係を構築できる力を身に付けてほしいと願っています。

○サッカー部 顧問 熊谷 渉 先生

トレーニングの時間をお任せできるので、勤務時間を効率的に使うことができます。また、私自身もコーチに質問して競技指導に生かすことができます。



外部指導員*(陸上競技)

*外部指導員については4ページ参照

○渡辺 昌輝 さん

**先生をサポートするだけでなく
生徒の身近な目標になりたい**

学生時代に陸上部で汗をかいていた経験を生かして、子どもたちに陸上の楽しさを伝えたいという思いで指導を始めました。先生の業務は部活動だけではなく、顧問の先生には人事異動があります。このような環境でも生徒が陸上競技を継続的に楽しめるサポートができたらと考えています。また、技能の向上を心がけながら生徒と一緒に走ることで生徒の身近な目標になれば良いと思っています。



部活動活性化事業 専門コーチ(体幹トレーニング)

○八亀 康次 さん (株式会社国際スポーツ医学研究所) 正しい知識や体の使い方を身に付けて 生涯スポーツにつなげてほしい

これまで、学生時代に体の使い方のトレーニングをしてこなかったことでけがをしてしまい、活躍できなくなったトップアスリートの選手を見てきました。そのため、中学生の頃から正しい知識や体の使い方を身に付けておくことが大切です。それが、けが予防や別の競技に移った時の適応力など生涯スポーツにつながります。

部活動支援の取組

教育委員会では、生徒数の減少や教員の勤務実態等の変化に伴い、顧問教員のみによる部活動指導が困難になっている状況を踏まえ、全国に先駆け、外部人材の力を活用した杉並区独自の部活動支援を行っています。今後も、教員の負担軽減を図りながら、生徒が部活動を通して楽しさや喜び、成長を感じることができるよう部活動の充実のための支援を進めていきます。



部活動活性化事業の実施(平成30年度、22校51部活動)

- 指導が困難な顧問教員の負担軽減のために、企業や団体に委託し、指導資格を有した専門コーチによる部活動を実施しています。
- 各校の部員が一堂に会し、元プロ選手等から指導を受ける「合同部活動事業」を実施しています。
- 顧問教員や外部指導員の指導技術力の向上のための講習「プロフェッショナル指導」を実施しています。

外部指導員の配置(各校年間延べ360人)

指導資格の有無は問わず、地域のボランティアの皆さんが自らの知識・技能・経験を生かして部活動の指導補助を行っています。



杉並区部活動ガイドラインの策定

平成30年6月に校長会、副校長会、区中学校体育連盟から選出された委員による「部活動のあり方検討会」を設置しました。委員会では、ガイドライン策定に向けて部活動の運営体制や適切な休養日等の設定についてなどの検討を進め、平成31年3月末に策定する予定です。

<主な内容>

- 休養日の設定 → 週当たり平日1日以上、土日も1日以上休養日を設ける。
- 活動時間の目安 → 平日は2時間程度、休業日は3時間程度を活動時間の目安とする。
- 年間・月間活動計画の作成 → 学校は部活動の活動計画を作成し、生徒や保護者にお知らせする。

問合せ：学校支援課 学校支援係 ☎03-5307-0756



教育相談体制が変わります

区では、子どもの教育に関する心配事について、専門的な立場からカウンセリングや助言など、関係機関と連携した総合的な相談・支援を行っています。一方で、発達障害児を含め特別な配慮を要する幼児の増加や学校におけるいじめの件数、不登校児童・生徒の数も増加傾向にあるため、よりきめ細やかな専門的支援が求められています。

こうした課題に対応するため、平成31年4月から教育相談体制が変わります。

新たにどんな教育相談体制になるの？

○特別な支援が必要な子どもに対し、幼児期から一貫した支援を行う専門的な相談体制になります。

*特別支援教育課「相談係」を「就学支援相談係」へと改組。発達の特徴に応じた教育的視点からの相談や特別な支援が必要な子どもの就学支援相談に特化した専門窓口になります。

○いじめ・不登校などについて、より専門的視点から児童・生徒と保護者への支援を行う相談体制になります。

*済美教育センター内に「教育相談担当」を新設。現在、特別支援教育課が実施している教育相談及び不登校対策に関する業務と、済美教育センターが実施しているいじめ・不登校等の相談業務を一体的に展開します。

新たな教育相談体制(平成31年4月から)

相談には教育、心理や福祉の専門職が担当します。

済美教育センター 教育相談担当

いじめにかかわる相談事業

- ・いじめ電話レスキュー
- ・すぎなみネットでトラブル解決支援システム

教育相談事業

- ・電話相談
- ・来所相談

いじめ・不登校にかかわる 個別の支援事業

- ・さざんかステップアップ教室
- ・スクールソーシャルワーカー事業
- ・不登校解消に向けた支援システム
- ・ふれあいフレンド

特別支援教育課

就学支援相談

- ・子どもの状態に応じた教育的支援

発達障害児等への幼児期 からの一貫した支援

- ・子供園等への巡回支援
- ・発達障害児等に対する教育的支援

平成31年9月に
(仮称)就学前教育支援センター
へ移転

平成31年度 教育予算(案)のあらまし

平成31年度の教育予算(案)は、前年度比106.8%となる約198億円(一般会計当初予算の約10.5%)です。その主な内容をお知らせします。

※教育予算(案)を含む一般会計当初予算(案)の詳細は、区HPをご覧ください。

杉並 予算

検索

学校教育環境の整備・充実

《小中学校体育館等への空調設備の設置》

特別教室(理科室・図工室等)への空調設備の設置を引き続き計画的に進め、全中学校の美術室への設置は、平成31年度に完了させます。加えて、児童・生徒の暑さ対策をより一層進めるため、新たに創設された東京都の補助制度を有効に活用し、小・中学校全校の体育館(平成31年度は、小学校13校、中学校6校)への空調設備の設置を、3年間を基本に順次進めていきます。



(仮称)高円寺学園 完成予想図

《高円寺地域の小中一貫教育校の整備》

(仮称)高円寺学園(平成32年4月開校予定)の新校舎建設工事を進めます。

《富士見丘小学校・中学校の一体的整備》

富士見丘小学校及び富士見丘中学校の一体的整備に向けて、基本設計・実施設計に取り組みます。

《杉並第二小学校の改築》

改築検討懇談会を設置し、学校関係者等から広く意見を聞き、基本設計に取り組みます。

就学前教育の充実

《(仮称)就学前教育支援センターの整備・開設》

区内全ての就学前教育施設への教育的支援と、保育者の育成支援を総合的・一体的に展開する拠点となる「(仮称)就学前教育支援センター」を平成31年9月、成田西二丁目開設(移転改築する区立成田西子供園と併設)します。同センター開設後は、新たに発達障害児等に対する巡回支援を開始するなど、関係機関と連携して就学前教育のより一層の充実を図ります。



(仮称)就学前教育支援センター
完成予想図(成田西子供園併設)

《幼保小連携推進校の拡大》

幼保小連携(幼児と児童の交流活動、保育者と小学校教員の連携など)を一層推進するため、幼児期から児童期にかけての接続期を滑らかにつないでいく取組を主体的に進める幼保小連携推進校を小学校全校に拡大します。

学校教育への支援

《新学習指導要領への対応》

小学校は平成32年度、中学校は平成33年度から全面实施となる新学習指導要領を見据え、小学校における外国語教育の教科化等に対応するため、引き続き各学校への外国人英語指導助手(ALT)及び日本人英語指導助手(JTE)を配置するとともに、各教科で「主体的・対話的で深い学び」を実践するため、教員研修の充実を図ります。

《オリンピック・パラリンピック教育の推進》

全区立学校・子供園において、オリンピック・パラリンピック教育を推進します。

図書館の改修・改築

《中央図書館の大規模改修、永福図書館の移転改築・複合化》

中央図書館は、平成31年度から改修工事に着手します。(平成32年9月にリニューアルオープン予定) 工事期間中は休館となるため、予約本の受取・返却や蔵書検索の端末を配置した荻窪臨時図書窓口(郷土博物館分館東棟1階<天沼3-23-1>)を開設(平成31年4月15日)するとともに、貸出の多い一般図書、中央図書館のみに所蔵される資料の一部は高井戸図書館で貸出・閲覧のサービスを実施します。

また、永福図書館は、旧永福体育館の跡地に、地域コミュニティ施設等との複合施設として移転改築します。(平成31・32年度建設工事、平成33年4月開設予定)

我が校はコミュニティ・スクール! ②

地域と共に歩む学校

向陽中学校 校長 菅野 武彦

※コミュニティ・スクールについては、教育報 No.230 号 (特集)・教育委員会 HP で紹介しています。

向陽中学校は、区内で最初にコミュニティ・スクールになった(平成17年4月)学校です。我が校の学校運営協議会委員の皆さんは、子どもたちの豊かな学びの実現のために「学ぶ場所は校舎に限らない。街中がキャンパスだ!」との想いで、会議での意見交換に留まらない積極的な取組を進めています。その取組の一つに向陽中生のための地域学習教室「Cafe勉」があります。「Cafe勉」は、わからないところがあればその場にいる元教員や大学生などが教えてく

れる学習室です。この取組は委員の皆さんと教員との合同研修会の中で、教員から「子どもの学習をもっと見たいが個別に教える余裕がない」との話を受けて「自分のまちの子どもは自分たちで面倒を見たい」と委員の一人が発起人となりスタートしました。

実施に当たっては、NPO法人や明治大学ボランティアサークル、地域の有志の方々で構成する実行委員会の事業として行っています。子どもたちは、放課後に教科書やプリントなどを持ち込み、学校とは違った環境や大人たちとの関わりの中で自主的に学んでいます。その多様な学びの場の提供と子どもの自主性の尊重は、我が校が掲げる「自立した学習者の育成」にもつながっています。これからも刺激的で頼もしい委員の皆さんと一緒に地域と学校との関わりあいを深めながら、子どもの成長を育んでいきます。

問合せ：学校支援課 学校支援係 ☎03-5307-0756



ゆうゆう永福館が会場となり、毎週木曜日と定期考査前の3~4日間で実施。また、正月にはお習字の達人が書き初めをしてくれる「Cafe勉スペシャル」も実施。

2018 すぎなみ教育シンポジウムを開催しました 「持続可能性×多様性 — みんなで描く、これからの杉並の教育」

H30
12/15(土)
開催

教育委員会では、平成24年に「教育ビジョン2012」を策定しました。その背景には、「多様な文化や個性を受け止め、他者や自然と共に生きていくことが求められている」時代という認識がありました。そして、育みたい力として、「持続可能な社会を目指し、次代を共に支えていく力」、「他者の存在を認め、多様な関係を結ぶ力」などを掲げています。今回のシンポジウムでは、これからの杉並の教育を考える上で欠かせない観点として「持続可能性」と「多様性」について議論を深める場としました。

保護者や教員のほか、子どもたちの学びや育ちを日々支えていただいている地域の方々約200名が参加

前半：シンポジウム

成田喜一郎氏(自由学園最高学部特任教授)、福田晴一氏(前天沼小学校校長)、岡嶋美和氏(文部科学省若手勉強会幹事)と井出隆安教育長が登壇しました。

(登壇者からの意見)

- 持続可能な地域社会の実現には、多世代がつながり、共に未来を想像できる身近な場が必要。
- それぞれの「違い」を「良さ」に転換していくことで、多様性を楽しむ力が生まれる。

後半：グループワーク

参加者が3人一組に分かれて、前半のシンポジウムで印象に残った言葉を元に、それぞれの考えを話し合うとともに、各自の考えを付箋にまとめて掲示し、終了後にみんなで閲覧することにより全体共有を図りました。

(参加者からの意見)

- 何を持続すべきか、立場を越えて話し合い、見直ししながら共有していくことが必要。
- 多様性の本質は、一人ひとりの子どもの可能性を見つけ出すことにありと気付いた。

今回、登壇者や参加者から示唆に富んだご意見をいただきました。これからの杉並の教育を考えていく上で生かしていきます。

問合せ：学校支援課 学校支援係 ☎03-5307-0756



第10回中学生「東京駅伝」大会で杉並区代表チームがたすきをつなぎました!

2月3日(日) アミノバイタルフィールド(味の素スタジアム内)・都立武蔵野の森公園特設周回コースで実施

都内自治体対抗「東京駅伝」大会(男女各50チームが参加)に、選抜された区立・私立中学校2年生42名の杉並区代表チームが参加しました。結果は、女子は区新記録のタイムで10位、男子は18位と健闘しました。男女総合では14位となり、それぞれの選手が力を出し切り、杉並区のたすきをつなぎました。

男子キャプテン 和申中学校 廣田直義 選手(陸上部)

チームのみんなで練習会や大会に参加したことで、走ることに楽しさに気付きました。楽しむことの大切さを学んだことを生かしてこれからも頑張りたいです。



女子キャプテン 宮前中学校 宮田もも花 選手(水泳部)

走っているときに聞こえた沿道やチームメイト、家族、親戚の応援のおかげで頑張ろう!という気持ちになりました。たくさんの皆さんから助けられて、ありがとうございます。気持ちを伝えたいです。



問合せ：済美教育センター ☎03-3311-0021

連載2

ようこそ学校図書館へ



その⑥ 沓掛小学校

「くっつけボックス」は、各学年、成長段階に合った本を20冊程度選び、様々なジャンルの本をバランス良く取り揃えています。本はそれぞれ複数冊を用意し、読みたい本がすぐ読めるようにしました。また、今まで手に取らなかったジャンルにも手を伸ばし、多様な内容の本を読んで新たな興味を広げることを期待しています。



「くっつけボックス」推薦図書全て読み切った子どもたちが増え、今年度は2学期までに100名を超えています!

「くっつけ書店コーナー」PRポスターは学校図書館内に「くっつけ書店」として本と共に展示しました。お店のディスプレイの効果で、3・4年生に限らずよく読まれ、子どもたちの興味を広げています。



「読書交流」は、読書活動の中にみんな感想や意見を交わす場を取り入れ、様々な視点から作品を読み、内容の理解を深めていく取組です。その一つに国語の発展学習として「きみたちは書店員さん」があります。これは5年生が書店員になったつもりで、3・4年生向けに本をPRするものです。各自が本を1冊選び、同じ本を読んだ者同士でグループになって、その本のPRポスターを作成します。子どもたちはポスター作成に向け、各自持ち寄ったキャッチコピーを比べ合い話し合う中で、共感したり、自分とは異なる見方に気付いたりして、作品とじっくり向き合うことができました。

学校司書の古賀さんは、「個人の読書から、協同する読書に広がることで、作品を深く理解する体験ができた。学校図書館は、6年間を通して、推薦図書を紹介することや様々な読書の方法を提案することで、読書する力を育成していきたい。」と話しています。

問合せ：済美教育センター ☎03-3311-0021



PRポスター「ネコのタクシー」

H30
12/26~28
実施

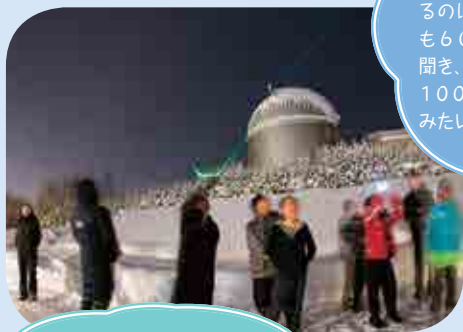
杉並区次世代育成基金活用事業

小学生名寄自然体験交流事業を実施しました

区内在住の小学5・6年生 25名が区の交流自治体である北海道名寄市の
厳しい寒さと豊かな自然の中で、貴重な体験と名寄の小学生との交流をしてきました。

なよろ市立天文台きたすばる「星空観察」

数えきれないほどの星々に囲まれて、天文台長によるオリオン座大星雲や冬の天三角についての特別講義が始まり、東京と名寄の星空の違いを学びました。



たくさん星が見えていたのに、名寄ではそれでも60%ぐらいの星空と聞き、本当に驚きました。100%の星空を観察してみたいと思いました。

スノーシューを履くことで、足が埋まることなく自由に探検ができて、楽しかったです。

スノーシュートレッキング

スノーシューは雪の上を歩く道具です。これを履いて、雪深い森の中を名寄の小学生と一緒に探検しました。自然観察指導員の方から、極寒の大地で冬を越す生き物たちの生態などを学びました。



移動式天文台車

「ポラリス2号」がやってくる!

なよろ市立天文台きたすばるの技師を招き、ポラリス2号に搭載された口径40cmの望遠鏡で観る太陽観測会と星空観望会のほか、天文講座も行います。日時・会場等は区HPをご覧ください。

ポラリス2号 春の観望会

3/15~17
開催



問合せ：社会教育センター ☎03-3317-6621

名寄市北国博物館

名寄の自然環境や、厳しい寒さの中での人々の暮らしの歴史を学びました。暖を取るための生活用品や、雪の上を歩いたり、物を運んだりするための道具の進化などから、寒い気候に適した北国特有の生活や文化を創りだしてきたことがわかりました。



昔の人が、サケの皮で靴を作ったり、動物の毛皮で防寒具を作るなど、自然の恵みを大切にしながら生きてきたことに感動しました。

問合せ：生涯学習推進課 管理係

2/2 (土)
実施

学習成果発表会

今回の自然体験を通して学んだことや名寄の小学生との交流で感じたことなどを作品にまとめ、発表しました。



※学習成果発表会の模様や児童の発表作品を映像で紹介します。
3月25日(月)~30日(土) (区役所中棟2階区民ギャラリー)

※参加児童の作品・作文をまとめた「小学生名寄自然体験交流事業報告書」は、4月上旬に教育委員会HPへ掲載予定です。

大きな舞台に緊張したけれど、名寄での貴重な体験を多くの人に伝えることの大切さを実感しました。

小学生名寄自然体験交流

教育委員会からのお知らせ

◎「杉並区教育ビジョン2012推進計画」の改定に向け、4月1日から30日まで「区民等の意見提出手続き」により、ご意見を募集する予定です。詳細は4月1日から区HPでお知らせします。

広告

kakinokiconbrio.com

どの子にも 自信と安心
そして 笑顔を…

発達サポート(個別学習指導・コミュニケーション指導・各種相談)

かきのき教育支援室コンブリオ

☎(03)6915-0203

西武新宿線 下井草駅徒歩6分 井荻駅徒歩8分

学校の各種印刷 お任せ下さい

学校要覧・研究紀要・研究集録・学習の手引き・健康カード
学事報告・名刺・封筒・プラスチックカード・クリアファイル

☎03-3393-1321

DTPプリントセンター YPC 株式会社 山下印刷
印刷・企画・デザイン 杉並区上荻1-24-13 FAX:03-3398-3801